

藤山 ゆきこ

活動報告 vol.35 2026.3



令和8年度の予算について審議する2月定例会が3月12日閉会しました。この定例会では、一般質問をさせていただくとともに予算委員会にも所属し、府政や予算に関する様々な発言をしました。4月5日に知事選挙を控えていることから、今回の予算は骨格的な予算になりますが、物価高騰対策や中小企業支援など時宜にかなった取り組みを進めるための予算も計上されています。しかし、もちろんこれで十分ではありません。世界情勢が大きく変動する中で、府民生活を混乱させないために、更に力強くしなやかな京都経済を実現する必要がありますと考えています。国の動きを注視しつつ京都府の特性を踏まえ、京都府に合った取り組みを進められるよう、研究を重ねるとともに皆様の声をお聞かせいただき、京都府に届けて参ります。

これからもあたたかいご支援とともに、ご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。この度、私の取組の中で、皆様の生活にも大きくかかわる取組が実現することとなり、後方に掲載いたしましたので、ご覧ください。

京都府議会議員 藤山ゆきこ



議員活動



新潟フォッサマグナ地域おこし



治山ダム宇治白川 コンクリート表面に木材を貼付ける

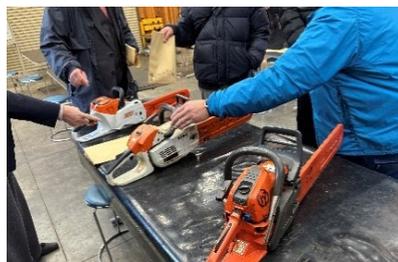


福知山市と丹波市を結ぶ「榎峠トンネル」



ライオンアリーナ神戸のデータ収集コンパクトシティ

視察いろいろ



農林大学校



京都翔英高校看護学科



学び多き一年、ありがとうございました





1 やりがいを感じられる職場づくりについて

若者の公務員離れが深刻化し、早期退職も大きな問題になる中、本府でも普通退職者は増加傾向にあり、職員の力を最大限に発揮させる環境が求められると考える。

- (1) 若手職員を育てる職場づくりやフォロー体制づくりについての考えは。
- (2) 求められる3つの姿勢「現場主義」「前例にとらわれない」「連携にこだわる」に対する成果と課題、更にそれらを踏まえた今後の取組についての考えは。



答弁

- (1) 職員一人ひとりが「やりがい」や「成長」を実感できる魅力ある職場づくりを進め、職員の確保・育成・定着に繋げていくことが重要であると考えている。職位毎の研修を実施するとともに、特に若手職員には、日頃の業務においても仕事の意義をしっかりと伝えて業務付与を行うなどにより実感できるよう、育成している。退職増加の一因であると考えている、仕事に求める希望や理想と、実際の職務との間の隔たりについては、人事異動ヒアリングや自己申告の中で把握してはいるが、十分とは言えないことから、業務の中で、職務への考えなどを汲み取り、適切なタイミングで一人ひとりに応じた期待や支援、改善点を示す取組が必要であると考えている。そのため、令和7年度に改定した「京都府人材確保・育成指針」において、職場や職務にどれだけ熱意を持って前向きに関わろうとしているかを把握することにより、職務満足度を向上させる取組ができないか、検討を進めている。適した育成を行うことで、実際の職務が求めるものに近づいていくものと考えている。このような職場づくりを進めることにより、上司と部下はお互いに理解を深め、職場でのフォロー体制も構築でき、職員が安心して新たな業務に挑戦し、能力発揮や成長が実感できるものと考えている。今後とも、組織全体で職員を大切に育て、「やりがい」や「成長」を実感できる職場づくりに取り組んでいきたい。
- (2) 「3つの姿勢」を体現できる職員を「目指す職員像」として職員育成や職場づくりの中心に据え、取組を進めている。新型コロナウイルス感染症に対応する中で、現場の状況を把握し、多くの方々と連携し、信頼関係を構築できていたからこそ、前例のない事態を何とか乗り越えることができたものと考えており、少しずつではあるが、職員に浸透しつつあるものと考えている。更に浸透・定着させていくためには、組織的にどのように取り組んでいくかが課題であり、機会あるごとに職員に求め続けること、管理職が日々の業務の中で率先して取り組み、徹底することにより、思いを共有できる職場づくりや思いを共有する職員を育成していきたいと考えている。

2 幼児教育について

幼児教育は就学前の子どもに遊びや生活体験の中で、生きていくための力を身に着ける土台作りである。

- (1) 認定こども園への移行が進む中、幼児教育の推進についての現状をどのように把握しているのか。
- (2) 幼児教育推進の拠点である「幼児教育センター」が開設から6年を迎える中、改めて見えた幼児教育推進の課題とその解決に向けた考えは。



答弁

- (1) 認定こども園制度は、保護者の様々な就労形態に対応しつつ、幼児期の育ちを切れ目なく支える制度として、その意義は大きいものと考えている。開始から一定期間が経過し、職員間の連携が進み、教育と保育とを一体的に進める取組が定着しつつある園も増えてきている。一方で、教育・保育観や勤務形態の違

いなどに戸惑いを感じている園も一部にはあると承知している。

- (2) 幼児教育センターを設置し、設置主体(国公立)や施設類型(幼・保・認定こども園)を問わず、園ごとの状況や課題に応じて幼児教育アドバイザーを派遣し、現場支援を行ってきた。その中で、園ごとの多様性を背景に、子ども一人一人の経験にも幅が見られ、小学校入学後に戸惑う子どもが見られることから、円滑な接続に向けた丁寧な対応が求められている。こうした課題に対応するため、今年度から4年間を「SECOND STAGE」と位置付け、従来の取組に加え、円滑な接続という「つながり」と、違いを越えた「広がり」の視点をもって取組を進めている。具体的な取組として、カリキュラムの開発に取り組んでいるほか、幼児教育施設と小学校との連携を円滑に進める役割を担う架け橋期コーディネーターを各施設に派遣して子どもたちの姿を見取りながら、施設の方針に基づく質の高い教育・保育の実現に向けた助言を行っている。さらに、現場に近い市町村が主体となった体制づくりが重要であることから、市町村におけるコーディネーター育成や推進体制の充実に向け、伴走支援を行っている。府教育委員会としては、今後も、幼児教育の多様性を尊重し、幼児期から小学校までの育ちの連続性を大切にしたい、安心と希望のある幼児教育の一層の充実に取り組んでいく。

3 歯と口の健康づくりについて



プレコンセプションケアは、妊娠を望む前の段階から心身の状態を整えるという意味を持つが、現在は健康管理や人生設計など全ての人に関わる大切な概念としての認識が広がっている。

プレコンセプションケアを推進する上で歯と口の健康づくりについてどのように認識しているのか。



答弁

歯と口の健康を保つことは、生涯を通じて健康で豊かな生活を送るうえで重要であることを理解し、健康づくりに取り組むことができるよう、「京都府歯と口の健康づくり基本計画」に基づき、ライフステージの特性に応じた取組を推進している。

性や妊娠に関する科学的知識の普及を図り、健康管理を促す取組である「きょうとプレコン」においても、生活習慣の改善や、妊娠・出産のリスクの低減という観点から、歯と口の健康づくりに関する普及啓発を行うことが重要であると考え、これまでも「きょうとプレコン」の啓発イベントを実施する際に、歯と口の健康づくりに関するブースを併せて出展し、参加者に、生活習慣の改善などにつなげていただけるよう取組を進めてきた。

早い段階から健康的な食生活や歯と口の健康に関する知識の普及啓発を行っていく必要があることから、今後は、ライフステージに応じた普及啓発をより強化するため、高校生教育プログラムや大学生・社会人向けのセミナーにおいて、歯と口の健康が妊娠・出産等に与える影響についての科学的な知識や、歯科健診を受けることの重要性に関する内容を盛り込み、健康で豊かな生活の実現に向け、プレコンセプションケアの取組を通じて、若い時期から歯と口の健康づくりに関心を持っていただけるよう取り組んでいきたい。



令和8年4月から自転車に青切符(交通反則通告制度)適用 (対象:16歳以上。113の反則行為)



例)傘さし運転(5000円) 車道の右側通行(6000円)
信号無視(6000円) スマホやイヤホンのながら運転等(12000円) 他
※ 飲酒運転や妨害運転等、特に悪質な違反行為は、従来通り赤切符

同じくして、自動車等が自転車等の右側を通過する際の規定が新設
両車の間に十分な間隔が取れない場合

- ・自転車との間隔に応じた安全な速度で進行
 - ・自転車もできる限り道路の左端に沿って進行することが規定
- (普通車:点数2点・反則金7000円 自転車:反則金5000円)



京都府議会の“いま”をお知らせ中
フォローをお願いします



YouTube



X

令和8年度当初予算案および令和7年度2月補正予算案概要

総額 1兆581億700万円

令和8年度当初予算 1兆432億6,000万円

令和7年度2月補正予算（当初予算と一体的に編成） 148億4,700万円

府民生活や事業活動を守る物価高騰対策

一部抜粋のため、詳細は
ホームページのお知らせをご覧ください

1 府民生活を守り向上させるための取組

- ・乳幼児家庭外出支援事業費（外出応援キット配布・ベビーケアルーム設置等） 4億円
 外出応援キット内容：5000円相当の品。対象：乳幼児(0～2歳児)
- ・子ども銭湯利用促進事業費（R8年度中の小学生以下入浴料無料化）  5,600万円
- ・保育所等活動継続支援事業費（演奏会やお遊戯会などの取組） 3億円
- ・児童福祉施設（乳児院、児童養護施設等）特別支援事業費 900万円
- ・きょうとこどもの城等特別支援事業費（子ども食堂等のイベント開催や食事提供） 2,500万円
 体験支援：14万円/箇所 食材費支援：2000円/日
- ・大学生物価高騰対策緊急生活支援事業費 1億6,200万円
 市内の大学が実施する学生食堂や修学必需品(書籍等)の割引など
- ・生活困窮者等物価高騰対策緊急生活支援事業費 1億4,000万円
- ・家庭脱炭素化総合支援事業費（例：断熱窓等の整備に最大10万円） 2億4,800万円

2 事業活動を守り発展させるための取組

- ・金融・経営一体型支援体制強化事業費 5億4,000万円
- ・中小企業金融支援費（信用保証料負担を軽減・経営改善までサポート） 6,000万円
- ・生産性向上・人手不足対策事業費 8億円
- ・伝統産業事業継続支援事業費 1億9,000万円
- ・地域商業活性化・物価高騰対策事業費 2億2,000万円
 商店街等が行う消費喚起に係る取組（防犯灯の新設・改修に係る経費補助等）
- ・地域交通総合対策費（維持確保、利用促進の取組や人材確保対策等を支援） 4億7,000万円
- ・建設業人手不足対策支援事業費 3億円
- ・畜産新規参入促進事業費 2,000万円

府民の安心・安全対策

1 安心できる健康・医療・福祉の充実

- ・看護師等確保・定着対策事業費 6億8,200万円
- ・総合医師確保対策費 9億6,700万円
- ・子どもの心の診療ネットワーク事業費 2,800万円
- ・高齢者施設等利用者支援事業費（利用者負担を軽減するため行事实施を支援） 2億円



- ・介護現場業務効率化促進事業費（デジタル化推進で事務負担を軽減） 1,200万円
 - ・福祉医療制度充実費 82億8,300万円
- 小学校卒業まで通院時に係る自己負担上限額は月200円（医療機関）**
重度心身障害者の入院・通院に係る自己負担はゼロ

2 災害発生時における対応強化

- ・災害救助用備蓄物資整備費（食料・飲料水等の重点備蓄品目を計画的に確保） 1億3,000万円
 - ・避難生活環境整備事業費 1億3,500万円
 - ・航空消防防災体制広域運用事業費（京都府防災航空隊(仮称)の運用開始） 3,000万円
 - ・住宅・建設物耐震化総合支援事業費 1億8,800万円
- 住宅密集地域(重点エリア)に係る住宅耐震助成制度等を拡充**

子育て・教育環境の充実

1 子育て環境の充実



- ・子育てにやさしいまちづくり推進交付金 1億400万円
 - ・プレコンセプションケア※プロジェクト推進事業費 200万円
- ※若い男女が将来のライフプランを考えながら日々の生活や健康と向き合うこと
- ・きょうと婚活応援強化事業費 1,600万円
 - ・京都版ミニ・ミュンヘン開催事業費 1,100万円
 - ・未入园児保育支援事業費（2歳児の幼稚園利用料への支援強化） 4,300万円
- 私立幼稚園実施の利用料減免で第1子への基礎支援額を3000円から6000円まで拡充**
- ・子育て世帯向け府営住宅リノベーション事業費 1,600万円

2 教育環境の充実

- ・私立高等学校あんしん修学支援事業費（国制度に上乗せして支援） 21億3,300万円
- 最大55.9万円（年収590万円以上で兄弟姉妹が同時在学(高校・大学等)する世帯）**
- ・私立学校省エネ推進緊急対策事業費 4,000万円
 - ・府立学校教育環境整備事業費 8億8,000万円
- 体育館等の空調設備整備やトイレの洋式化を令和12年までに府立高校全校対象に実施**
- ・未来を担う高校生育成プロジェクト事業費（府立高校魅力化に向けた取組） 3億5,000万円
 - ・学校給食費負担軽減支援事業費（給食を実施する公立小学校等を対象） 63億600万円
- 小学校・義務教育学校前期課程：5200円/月 特別支援学校小学部：6200円/月**
- ・京の高校生「海外探Q留学」応援事業費 5,000万円
- 語学力・成績不問の海外留学制度を創設し、留学生派遣を開始**

人・物・情報・日々の生活の基盤づくり / その他の施策

- ・道路整備等の公共事業 561億7,200万円
- ・全国都市緑化フェア開催事業費 4,500万円
- ・有害鳥獣総合対策事業費 11億900万円

府道八幡宇治線、宇治市道の変則交差点改良実施（今秋予定） 横断歩道と信号機新設（地図参照）

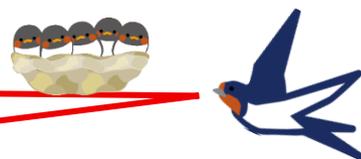
令和7年9月定例会にて、危険性が指摘されており、一日も早い対応が望まれる伊勢田町マツヤスーパー付近の変則交差点の整備について一般質問いたしました。答弁で、信号機の増設、横断歩道の設置場所の見直しや、歩車道境界ブロックの再配置など、警察と連携して交通安全対策の検討を進め、早期に歩行者の安全確保のための工事に着手できるよう取り組んでいきたいとの意向を示され、今年2月に今秋完了予定を目指し、工事に着手すると発表がありました。ただし、本来は井川改修にあわせた改良を行う予定であったところが、予定より井川改修に時間を要することから、先に安全対策のために行うものであり、井川改修の際に改めて改良の検討が行われます。



令和7年9月定例会にて、危険性が指摘されており、一日も早い対応が望まれる伊勢田町マツヤスーパー付近の変則交差点の整備について一般質問いたしました。答弁で、信号機の増設、横断歩道の設置場所の見直しや、歩車道境界ブロックの再配置など、警察と連携して交通安全対策の検討を進め、早期に歩行者の安全確保のための工事に着手できるよう取り組んでいきたいとの意向を示され、今年2月に今秋完了予定を目指し、工事に着手すると発表がありました。ただし、本来は井川改修にあわせた改良を行う予定であったところが、予定より井川改修に時間を要することから、先に安全対策のために行うものであり、井川改修の際に改めて改良の検討が行われます。



工事の際には、十分に安全対策を行いますが
歩行、運転には気をつけてご通行ください



南北の宇治市道伊勢田町42号線と東西の市道南山蔭田線及び久御山町道清水・北畑線 の変則十字路交差点において交通規制と区画線の見直し実施（下図参照）

現在、交差点の東西に一時停止が実施されています。なぜ南北ではなく東西なのか、南北に一時停止が必要なのではないか。この疑問を問い合わせてみました。

この一時停止は、昭和58年に出合頭の事故防止のために決定されたそうです。ただ、なぜ東西に実施したかは詳細な資料がなく不明ですが、一般的な推測として、当時は東西道路が南北道路に比べ、幅員が狭く、交通状況も考慮した結果、東西に一時停止を実施するに至ったのではないかとのことです。しかし現在では、東西道路の方が幅員も広く、約2倍の交通量であることから、東西道路が主であることが適切と判断され、今後、交差点の一時停止を南北に入れ替えるとの回答をいただきました。入れ替えるにあたり、新たな出合頭での事故増加を防止するため、右図のように段階的に措置が講じられます。また、交差点の内外は車道外側線の整備が不十分であることが確認されたため、整備もあわせて行っていただきました。

